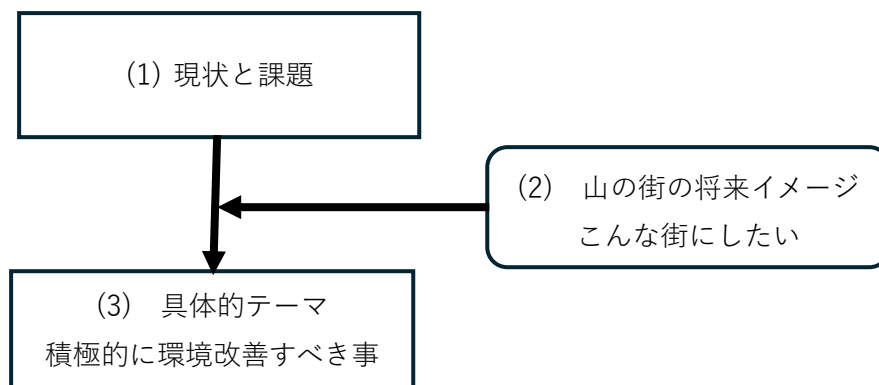


1. 山の街・まちづくり構想の組み立て（令和7年度総会説明資料より）



(1)現状と課題(ワークショップの意見から)

①現状認識

- 山の街は、1935年に神戸電鉄が「やきもち地蔵」をきっかけに山の街駅を開設し、1960年代から宅地開発が進められ、1977年には甲緑小学校が開校した歴史がある。
- 都心に近く、周辺に豊かな自然がある良さがある。
- 住民は「生活に便利なまち」を強く望んでおり、かつて存在した市場やミニスーパーがなくなり、不便さを感じている。
- 地域住民間の交流が希薄になっている側面も指摘されており、世代間や新旧住民の交流や情報共有の難しさがある。

②課題抽出

- 生活利便性の向上**：駅前にコンビニエンスストア、スーパーマーケット、パン屋、飲食店、カフェなどの日常生活の利便性が高い商業施設が不足している。
- 交通・移動の不便改善**：坂道が多く高齢化に伴い移動が困難な人が増え、コミュニティバスなどの移動を補助する施策の検討が必要である。
- 安全・安心の確保**：駅前の交番や防犯カメラの設置、暗い場所の整備、道路の安全性（ガタガタ道の改善、歩道の確保等）の向上、治安面の懸念への対応が求められている。
- 防災対策の偏り解消**：避難所の場所が地域的に偏っており、電気や水が止まった際の対策、地震への備えが懸念されている。
- コミュニティの希薄化改善**：地域コミュニティの拠点となる場所が不足しており、多世代交流や情報共有が難しい状況である。
- 人口減少対策**：外からの移住者を増やす必要がある。
- 子育て環境の形成**：子育てしやすいまち、安全で伸び伸び遊べる空間、広い公園の整備が必要である。
- 歴史・文化の継承と魅力発信**：やきもち地蔵などの歴史や文化を気軽に知れる拠点や、地域の魅力を発信する取り組みが求められている。
- 景観整備**：道路や造成地の斜面の整備において、景観を考慮した緑化（桜の植樹など）の必要性が挙げられている。

2. 山の街のまちづくりに関する総会での意見の要約

山の街の将来について、住民から以下のような多様な意見が出されました。

- **神戸電鉄への要望:** 神戸電鉄は、山の街の「駅勢圏」を考慮したまちづくりを進めるべきです。現状のままでは山の街駅がなくなるのではないかと危機感を持っている。
- **ミニコープとの連携**
地域の生活インフラとして重要なミニコープがなくなる可能性に懸念を示し、早急に対話の場を設けて住民のニーズを伝えるべきだと訴えています。
実際に、まちづくり協議会がミニコープとの意見交換の場を持つことになった。
- **地域の魅力創出:**
山の街の強みを再確認し、外部からの移住者を増やすための新しい魅力やキャッチコピーを検討すべきだ。
住民が楽しみながら参加できる「まち歩き」などを通じて、交流を深め、まちづくりへの意欲を高めることが提案された。
- **交通・安全・景観:**
「やきもち地蔵」への道や駅の踏切、公園の石垣など、具体的な場所の危険性や老朽化が指摘された。
駅前のバスロータリーの活用や、昭和の懐かしい雰囲気を活かした景観整備も要望されている。
- **住みやすさと課題**
住民歴 45 年の意見として、街全体が寂れている一方で、都心への交通の便は良く住みやすいという側面も指摘された。
また、「こども食堂」や「ふれあい喫茶」など、住民の交流を支える既存の活動が重要であることも再確認されました。
- **現役世代の意見の反映**
このような会合には比較的高齢の方々が多いので、意見集約にはもっと若い世代の意見を反映させる必要がある。そのうえで、まちづくり協議会としてのまちづくり構想案を取りまとめるべき。